

令和3年度阿寒摩周国立公園エゾシカ現地ミーティング 実施結果の概要

<開催日時>

日時：令和3年10月8日(金) 9:30～15:30

場所：ニュー阿寒ホテル 3階 花鳥風月

<開催目的> 関係機関で実施しているエゾシカ対策等の情報共有及び意見交換

<出席者> 協議会構成員及びオブザーバー 19名（2機関、1団体、8自治体）

<講師>

氏名	所属・職位
明石 信廣	地方独立行政法人北海道立総合研究機構 森林研究本部 林業試験場 道北支場長
長 雄一	地方独立行政法人北海道立総合研究機構 エネルギー・環境・地質研究所 道東地区野生生物室長
酒井 賢一	一般財団法人前田一步園財団 森林保全課 課長
立木 靖之	学校法人酪農学園大学 環境共生学類 生物多様性保全研究室 准教授

<実施内容>

午前

- (1) 林業被害対策の取り組みの紹介と進捗共有
一般財団法人前田一步園財団 酒井氏より説明

- (2) 現地確認

現地講師

地方独立行政法人北海道立総合研究機構 森林研究本部 林業試験場 道北支場長
明石氏

地方独立行政法人北海道立総合研究機構 エネルギー・環境・地質研究所 道東地区
野生生物室長 長氏

午後

- (1) 阿寒摩周国立公園の森林植生に及ぼすエゾシカの影響把握に関する調査
の手引きの紹介

地方独立行政法人北海道立総合研究機構 エネルギー・環境・地質研究所
道東地区野生生物室長 長氏

- (2) エゾシカと天然更新

地方独立行政法人北海道立総合研究機構 森林研究本部 林業試験場 道北支場長
明石氏

- (3) 情報共有の推進に向けた意見交換

ファシリテーター

学校法人酪農学園大学 環境共生学類 生物多様性保全研究室 准教授 立木氏



写真1 現地確認の様子（明石氏によるエゾシカの痕跡の説明）



写真2 意見交換の様子

（立木氏によるファシリテーションで、協議会構成員やオブザーバーから対策の実施地点などの情報を聞き取り、大地図に書き込みつつ、意見交換）

<意見交換で出された意見の概要>

○被害状況に関する情報・意見

- ・町有林で植栽したカラマツに対してエゾシカによる食害が発生している。
- ・農業被害状況等のデータは自治体、JAが所有している。

○エゾシカの生息状況に関する情報・意見

- ・川湯地区でGPS首輪を装着した個体がシカ柵の切れ目を利用して清里町と小清水町を移動した。
- ・除雪が出来ない地域では狩猟者が入らず、エゾシカが増加しているという印象を持っている。
- ・地域の中で、特にエゾシカの多い地区等の情報は、狩猟者が把握している。

○対策状況に関する情報・意見

- ・市街地近くの農地で有害鳥獣捕獲を実施している。市街地近くでエゾシカが捕れるので、市街地から遠い場所へわざわざ行く必要がない。特に、市町村界や鳥獣保護区付近では、エゾシカを発見した場合、どの市町村に含まれるのか、保護区内なのか等の判断が難しいため、銃器による捕獲はあまり実施されていない。
- ・有害鳥獣捕獲は狩猟者が付き合いのある農家の周辺で実施する機会が多いことが、国立公園の隣接地域で狩猟者による捕獲が実施されていない理由の一つになっている。
- ・防風林の入り組んでいる中に人家が点在している地域ではライフル銃が使いにくいいため、有害鳥獣捕獲は実施されない。
- ・国有林内では、有害鳥獣捕獲が実施されていないため、国有林でエゾシカが多くなっているのではないかと。
- ・国有林が市町村との連携事業で林道除雪を予定している場所もある。
- ・町の外周にシカ柵を設置しているが、柵の中（農地）でシカが増え始めている。
- ・2人ペアになって流し猟的に動く一斉捕獲を夏場を実施しているがあまり成果は出ていない。
- ・一斉捕獲は予定していないが、猟友会との関係は良好で実施体制を整えることは可能。

○その他、エゾシカ対策の支援につながる情報について

- ・その年のエゾシカの移動や増減を予測する情報があるとありがたい。

<情報共有について見えた課題>

- ・狩猟者が入らない市町村界付近や国立公園および隣接地域での情報が欠落している。
- ・阿寒地域では既に影響を受けやすい植生は消失しており、植生影響調査で変化が捉えにくい。
- ・シカ柵のデータは参考になるため、データを更新しておくことが望ましい。
- ・シカの動きを予報することは難しいが、各種調査の最新データに解説をつけて共有することはできる可能性がある。
- ・GPS首輪のデータは有効性が高く、まだデータのない地域でのGPS首輪の装着が望まれる。